

保護者 様

平成28年 9月2日

川棚町立川棚小学校
校長 山口 厚

平成28年度 学校評価の中間評価について（お知らせ）

2学期が始まり、学校に元気な姿が戻ってきました。皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。夏休み大きな事故、事件もなく終えることができました。ありがとうございました。

さて、標記の件について別紙(裏面)のとおりお知らせします。本評価の見方は下記のとおりです。今後は、本年度の最終評価に向け、保護者アンケート等を実施し、次年度の学校経営に活かしていきます。今後も御理解、御協力いただきますようお願いいたします。

記

1 目的

- (1)児童の健やかな成長を目指し、学校が組織的に、今、重点的に取り組むべきことは何かを把握し、その改善に取り組む。
- (2)評価を公表し、説明責任を果たすとともに、保護者、地域の方の理解と協力を得ながら、学校・家庭・地域の連帯協力による学校づくりを進めていく。

2 学校評価の見方（左の欄より）

長期目標・・・目指す児童像(最終目標)

中期目標・・・6年間在学中に育てたい学校の目標

短期目標・・・中期目標達成のために、特に重点を入れて取り組みたい目標

具体目標・・・短期目標達成のための具体的な目標

担 当・・・具体的目標を決め、主に担い、評価、改善を行う担当部会や担当者

評価方法・・・どうやって評価するか。評価の指標等

達成状況・・・現在の状況

評 価・・・4段階評価。

A・・・目標が達成できている。

B・・・目標がだいたい達成できている。

C・・・目標があまりで達成できていない。

D・・・目標が達成できていない。

改善策・・・現状を踏まえ、目標達成のための方策

3 今後の学校評価スケジュール

- | | |
|-----|------------------------------------|
| 10月 | 保護者（全世帯）のアンケート実施。 |
| 11月 | 全児童のアンケート実施 |
| 12月 | 全職員による最終評価実施。 |
| 2月 | 学校関係者評価の実施
次年度の改善点、重点目標等を協議、決定。 |
| 3月 | P T A理事会において報告、町教育委員会へ報告 |

4 参 考 東京学芸大学名誉教授 児島邦宏氏の言葉より引用（内外教育）

コミュニケーションツールとしての『学校評価』

学校評価の意義の大きさと今後の在り方について、次のように感じている。

第1は、学校評価はそれぞれの学校の「目標に準拠した評価」であり、他校と比較したり優劣を競ったりするものではない。それぞれの学校の目標や子ども像の達成を目指し、日常の実践を問い、その「伸び」を見ていくもので、「未来志向」「子ども志向」の評価である。

第2は、それぞれの学校の改善を目指した「プロセス」の評価である。あくまでも、学校の課題解決を志向した評価であり、そこから評価項目も絞られてくる。その結果、学校の特色が生まれ反映されてくる。

第3は、学校評価は、全ての教職員が、学校という組織を全体を意識する中で、全体の立場から日々の仕事を振り返り、自己の職務の在り方を位置づける営みである。組織としての一体感が弱くなりがちの中で、評価を通して協働化を生み出し組織としての統合を図っていく源泉として機能する。

第4は、学校評価は、地域の教育課題や地域住民の期待に対応した評価でなければならない。その点で、コミュニティ志向の強い評価であり、学校と地域を内容的に強く結びつける役割を担っている。

第5は、学校評価は、教職員、子ども、保護者、地域住民そして行政をつなぐ「5者連携」のコミュニケーションツールとしての機能を有している点である。学校評価の結果は次の一步の礎である。評価結果について5者が意見や感想、次の方策を出し合い、じっくり考えをめぐらすことこそ、学校評価の最大の効果といってよい。5者それぞれが「主体」として、「おらが学校」「おらが学び」を求めていく出発点と言ってよい。(一部略)

平成28年度 川棚町立川棚小学校「学校評価」(中間評価)

長期	中期目標	短期目標	具体目標	担当	評価方法及び評価基準	1学期の達成状況	評価	今後の改善策
思いやる子	相手を思いやり、川棚を愛する子	特別支援教育の充実 (児童の姿)	お互いのことをよく知り、認め合う	生活相談	アンケート	アンケートではいじめられたと答えた児童が13%いたが、陰湿な事例は見受けられなかった。	B	多くの目で見守り、必要があればカウンセリングにつなげていく。
		規範意識の向上 (児童の姿)	気持ちのよいあいさつをする	生活相談	アンケート	生活安全委員会や6年生の取り組みもあり、意識が高まってきた。	B	「あいさつ運動」等の良い取り組みをさらに広げていく。
		体験活動の充実(交流) (児童の姿)	様々な体験を通して、地域の人や異学年の人と、思いやりをもって交流している。	特別活動	観察	応援合戦で6年生を中心に異学年をリードしてくれたため、活気ある活動ができた。教え合いや上級生を手本としてがんばろうとする姿が見られた。あいさつ運動はよくがんばっているが、登校班を置いて先に来る子がいるのが気になる。たてわり活動は6年生がよい準備をし、スムーズにスタートすることができた。	B	応援合戦については6年生の負担感も大きいと思われる。午前の部を統一するとか練習日程を少し減らすとか対応を考えたい。
		特別活動の充実 (児童の姿)	集会等の企画・運営に進んで取り組み、楽しく参加している。	特別活動	観察	たてわりわいわい集会は6年生のよい準備とやる気が見られ、他学年にも前向きに取り組む姿が見られた。代表委に向けての学級での話し合いも進んで取り組んでいた。	B	委員会活動がさらに自主的なものになるよう、活動の意義や役割を明確にし、賞賛や発表の場を設けられるようにしたい。
進んで学ぶ子	確かな学力を身に付けた子	基礎基本の定着 (児童の姿)	・標準学力調査の基礎問題において、全国平均正答率以上を目指す。 ・学期末まとめテストで8割以上を目指す。	教務研修	テスト結果	算数科ではおおむね達成できたが、国語科においては、初見の文章に対する読み取りの力や漢字の書き取り・ローマ字などの力の個人差が大きく、今後の課題となった。	B	テスト(α、V、チャレンジ)の取り扱いについて、共通理解する必要があった。
		思考力・判断力・表現力の育成 (児童の姿)	・標準学力調査の基礎問題において、全国平均正答率以上を目指す。 ・学期末まとめテストで8割以上を目指す。	教務研修	テスト結果	授業中の発表などの際、語彙力不足、言葉足らずで、なかなか話し合いが深められなかった。また、内容を教えることについて、学習訓練などを身に付ける時間を取ることが難しかった。	B	漢字力をつける、教師側の工夫、手立てをみんなで出し合って、教える側の力も高めていきたい。
		タブレット・ICTの活用 (児童の姿)	学年に応じたタブレットの操作ができる。	教務研修	リテラシー一覧表	タブレットの取り扱い方、操作の仕方、フィルタリングについて再考しなければいけない事案が課題として出てきた。	C	夏休み中に系統表を作成する。
		読書の推進 (児童の姿)	年間100冊以上の本を読む。	教務研修	読書記録カード	読むこと読まない子の差が大きかったが、全体としてはよく借りているようだった。	B	100選を活用しながら、読書の質、幅を広げていく。
		家庭学習の習慣化 (児童の姿)	家庭学習に毎日取り組む。(時間の目安「学年×10分+10分」例:3年生は40分)	教務研修	アンケート	する子としない子がいるが、決められた課題には取り組むことができるようになってきた。する子の中でも意識や内容に差が見られる。	B	目標を持たせて、それを達成できるように、目標達成につながるような手立て・内容を工夫していく。
やりぬく子	体力づくりに努め、最後までやりぬく子	体力の向上 (児童の姿)	体育の授業に積極的に取り組む。	保健安全体育	アンケート(5月と3学期)	アンケート実施・入力済み。夏休みに考察。	B	考察をふまえ、対策を検討し、2学期の授業改善に備える。
		柔軟性を高める。	保健安全体育	アンケート(5月と3学期)	ジャックナイフストレッチのやりかたを説明し、体力診断テストの前に行った。準備運動にとりいれたところ、昨年度より柔軟性が高まった。	B	体育館に、ジャックナイフストレッチを掲示し、準備運動に取り入れ、柔軟性を高める。	
		清潔で安全な学校づくり (児童の姿)	無言掃除に取り組む。	保健安全体育	掃除後の反省会(だいすき)	だいすきの反省会を取り入れ、無言掃除を意識させた。	B	今後もだいすきの反省会を継続する。
		健康教育の推進【児童の意識改革】 (児童の姿)	病気に負けない生活習慣を身につける。	保健安全体育	うがい、手洗い、マスク、ハンカチ、ティッシュ、つめなどのチェック	体調が悪いときは、マスクをする習慣がついていた。ハンカチ・ティッシュ・つめのチェックはしているが、うがい・手洗いは声かけのみで、チェックまでは至らなかった。	B	毎日の帰りの会で、うがい・手洗いのチェックを拳手等で行う。
信頼される学校	指導力を高め、家庭・地域と連携し開かれた学校を推進する。	教職員の資質の向上 (教師・学校の姿)	楽しく分かる授業に努めている。	教頭	アンケート調査	・スキルタイムの有効的な活用がなされている学年が多い。 ・中・高学年においてICTを授業の中で効果的な活用がなされている。	B	・スキルタイムにおける各学年の取組を紹介し、参考にして取り入れる。 ・今、計画を進められている、ICTの系統表を活用していく。
		家庭・地域との連携 (教師・学校の姿)	電話や来校時の教職員の対応は適切である。	教頭	アンケート調査	・電話の対応や保護者への連絡等、誠意ある対応がなされている。 ・予定外の来客も多いが、臨機応変な対応ができています。	B	・電話や来客の対応が学校の印象を左右することを再確認する。 ・予定外の来客については、まず、明るく挨拶し、必要に応じて氏名や用件を尋ね、管理職に引き継ぐことの再確認をする。
		組織力の強化 (教師・学校の姿)	PTA活動に協力的である。	教頭	アンケート調査	・全校・学年・学級・地区PTAでの参加が積極的になされている。 ・町PTA活動への参加が消極的である。	B	・休日返上等、勤務時間外で大変ではあるが、それが保護者との信頼関係につながっていることを再確認する。 ・学校間の連携の大切さも再確認する。
		施設・設備等学校環境の整備	安全点検結果に基づく対応策の協議により、早急に改善または改善の目処をつけることで校内施設設備の不備による事故を未然に防ぐ。	事務	安全点検における各場所担当者による改善状況評価	安全点検の都度、早急な協議及び対応ができています。	A	今後も、引き続き安全点検の確実かつ注意深い点検及び実施を行い、早急な対応を図る。